



Subaru

男声合唱団 ニュースNo.532

'15. 11. 12

上町中学元気アップ事業「昂」コンサート

11月10日

「昂」の若々しい合唱が若者たちに届きました！

□11月10日(火)16:00より、上町中学校音楽教室で中学生と校長先生・先生方・音楽部の先生・元気アップ事業ボランティアのお母さん方・小清水さん(ボランティア代表者)約50名の前で1時間たっぷりと、第10回記念コンサートで歌う曲目のうち10曲を歌いました。「淀川三十石舟唄」「初心のうた」「美しく碧きドナウ」「降りつむ」「林道人夫」を本並先生の指揮で、間に千秋さんの独唱で「誰も寝てはならぬ」を、伊藤副指揮者の指揮で「ねがい」「街を返せ」「死んだ男の残したもの」 「Six Pence」アンコールで「昂」を、ピアノ伴奏は森二三さん。昂の参加者は全32名でした。



□「昂」メンバーは50年前の自分たちと重ね合わせて、目の前にいる体格の良い、「純粹」な表情をした中学生の前で、まずオープニングに地元大阪の名曲「淀川三十石舟唄」を若々しい声で響かせて拍手で迎えられました。教壇に立つ先生のようにわかりやすく曲の解説をする立川さんの名司会とあわせて合唱する昂の歌声で会場は若者の熱気とともに盛り上がり、昂メンバーもこのような若い人たちの前での演奏は初めての経験でした。

最後に合唱部の生徒さん(大阪市中学校合唱大会の優秀賞受賞の常連校の実力クラブ)に前に出てもらって全員で「故郷」を歌い会場は心ひとつに包まれました。



演奏後の交流の時間では生徒を代表して上町中学合唱部の3年生の部長が、彼ららしい感性で感想を述べました。通り一遍の“良かった”でなく、何を表現すればいいのか?彼の心の中に伝わった何かを表現しきれずに、どう伝えようかと言いとまどっているその表情に私たちは歌ってよかったですと感動をもらうことができました。

No.532(1/4)

(参考資料) 「降りつむ」「街を返せ」一口レッスンメモ(再掲)

昨年のうたごえ祭典で銀賞を受賞した「降りつむ」「街を返せ」のレッスン時の一口メモを載せた
「昂ニュース476号」「昂ニュース479号」から再掲します。昂メンバーは参考にしていただければ幸いです。(編集子)

□昂476号 2014.9.5レッスン(吉田亜矢子先生)

□後半に発声法だけではなく、演奏法の指導もしていただきました。「子音を立てよ」とよく言わ
れますか、その方法。母音が電線のように一本で連続しているとすると、子音は電線にとまつた雀
のようなもので、通音の母音を連続して発声していく。それぞれの音符のはじまりはもう、母音に
なっていなければならぬ。子音はその前に準備し発声する。

□「降りつむ」の出だし「悲しみの国に」はKANASHIMINO KUNINIの子音のKは8分音符の前に発
声する。8分音符の始まりはもう母音のAになっているようだ。「雪が降りつむ」は、「いゆきが」
と、「い」をつける。「降りつむ」の「ふ」は、下唇に歯をあてて、英語の「F」の発音で。

□母音ではじまる歌詞ですら、母音の前に子音のように母音を発声する。「うしないつくしたもの
の上に」の「う」は母音の前に子音をつける時のように「ううしないつくした」と、「う」をつ
ける。

□そのようにして「子音を立てる」ことをしないと、何を歌っているのか聴衆は聞き取れない。

□演奏法では、「ふりつむ ふりつむ ふりつむ」それぞれの和音の表情、情感を感じて歌う。

「街を返せ」の「返せ！返せ！返せ！……」は、その都度あちこちの皆に向かって「返せ 返
せ」というつもりで

□昂479号 2014.10.6号 10月3日(金)の定例レッスン

(レッスンメモ1)「降りつむ」

「かなしみのくに一にゆきがふりつむ」:

イントロのテンポ合わせる！出だしの言葉「か」は集中力で準備して！音程合わせろ！“ソ・ミ・ド”はハモ
らないとダメ！

前奏のピアノを聴いて情景をイメージしろ！雪が深々と降っていることを想像して声を出せ。すべての言葉は
口を縦に空けて！ここまで4小節のフレーズで合否が決まるといってよい。

「かなしみをかてとして 生きよと ゆきが・ふりつむ… ふりつむ… ふりつむ…」

「かなしみを」の「か」：前もって用意して上品な声で出せ！

雪はどこから降ってくるの？「ふりつむ ふりつむ ふりつむ…」と3度も出てくる。「ふりつむ」の表現
を変えよう！

ここまで一つの勝負だと考えよう！

(出だしを合わせる、音程を合わせる、想像力をたくましくして上品な声で言葉の一つ一つ、一語一語を口を
縦にあけて豊かな表現で、)

「失いつくしたものの上にゆきがふりつむ…」

ユニゾンだよ！声をまとめて、口を横にしないで、縦に空けて！声を頭の方へ集める気持ち
で！言葉をはっきりと！

「うしないつくしたもののうえーに」の「うえーに」：むつかしいが「えーに」横に気張った声にな
らないように！

「ゆきがふりつむーー」：フレーズの最後の言葉の処理の上手い下手で上手な歌い手かどうかが決ま
る。「ふりつむーー」最後まで口を縦にあけて、「むーー」は少しクレッセンドして<>(強弱を
つける)。

「その山河の上に…/ その薄いシャツのうえに…/ そのみなしごの乱れた髪の上に…/四方の潮騒いよいよ高く/ ゆきがふりつむ…/ ゆきがふりつむ…」

それぞれのフレーズを色分けして表現する。イメージして、のんべんだらりと歌わずに、一つのフレーズごとに表現が異なる。気持ちも表現もたたみかけるように！

「薄いシャツのうえに…」:「のう」と母音が2つ続く場合はそれぞれはっきりと出す。

「…乱れた髪の上に…」:テンポ合わない！乱れている！合わせて！

「いよいよ高く」:「高く」遅れないこと。8分音符で「たか」+「く…」

「ゆきがふりつむ」:「ゆき」は「いゆき」くらいに言う。

最後の「雪がふりつむ」は「雪が」から遅くするのではない！「ふりつむ」と「つむ」に入ってから遅くする。

「よりもひるもなく ながいかなしみの おんがくのごとく
泣きさけびの声をしずめよと ゆきがふりつむ…
ひよどりや きつねの 巣にこもるごとく
かなしみにこもれと 地に強い草の葉の ふゆをこすごとく…」

このフレーズはユニゾン！

「よる」の「よ」の音程が低い、高めに。「よりもひるもなく」のひとことひとことを、口を縦にあけて

「なきさけびのこえ」の「な」、「こえ」の「こ」と「え」は散らばった声にしない。

「ひよどりや…」:やさしい声で、きばらない。汚い「やあ…」は駄目。小さい声でよい。

「りや…」は「ひよど」から半音下がって「りや…」同じ音で響かす。下がりすぎるな！高めのところで保つこと。ファルセットの声で「やあ…」としたほうがよい。

「きつねの…」「すにこもるごとく…」:「きつねの」「…ごとく…」はそれぞれ同じ音程！

下がらない！

最後まで音程下がらないように！

「ふゆをこせよと ふゆをこせよと そのしたから…」
「ふゆをこせよと ふゆをこせよと…お…お…」

「ふ」はよく聞こえるようにはっきり出せ！

4度も「ふゆをこせよと」「ふゆをこせよと」と言う。気持ちも表現もたたみかけるように！

初めの「ふゆをこせよと」はあわてないで、

最後のバリトンとバスの「ふゆをこせよとお…」口を開けて音を続ける。休まずに、「その下から…」を待つ。「とお…」の音が低い！「ラシ…」しっかり音を保て！

「そのしたから…」: p p(ピアニッシモ)小さいけれど、はっきりした言葉で表現せよ！表情豊かに！

「したから…」の「ら」は下がらないように！

この「そのしたから…」の6文字の言葉の響きがお客様への聞かせどころだ！

「やがてよき春の たちあがれと ゆきふりつむ
無限にふかい空から しづかに しづかに…」

「やがてよき」の「や」はそれぞれのパートは自分の音をしっかり保って！音が合うように(ハモるよう)、曲の最初の「かなしみのくにに…」の「か」と同じ音程。

ここに来て、「よき春よ！立ち上がるのだ！春が来た！！」と、このフレーズはイメージ豊かに、明るい声で！

「よき春の」:明るく！「たちあがれと」:ア行の発声、縦に！

「ゆきふりつむ」:和音合わせよう！

「そらから…」:テナーの音程正しく確保して！

「しづかに…しづかに…」(rit) (だんだん遅く)。

最後の「に・・・」合わせよう！きれいな「に」を！（縦の口で）

「**非情のやさしさをもって ゆきがふりつむ
かなしみのくにに ゆきがふりつむ…**」

やさしい声で入る。

最後の「ゆきがふりつむ・・」の「む・・」は最後まで出し切ること（音を切ってしまわない）余韻を残して！

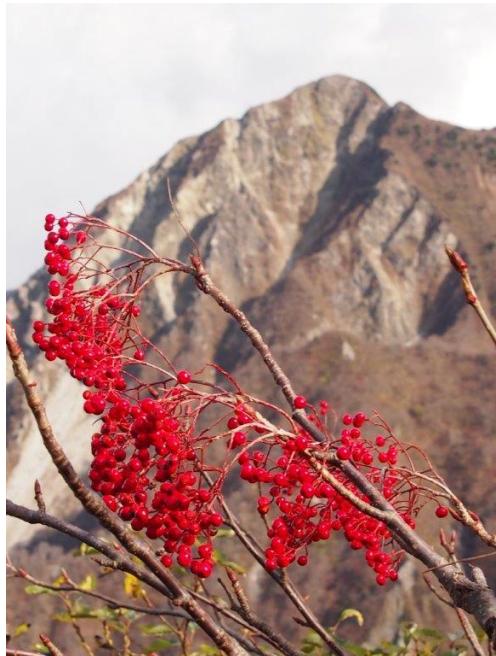
(レッスンメモ2)「街を返せ」

- ・「街をかえせ」と「村を返せ」の「街」の「ま」と「村」の「む」は同じ音程（「ミミミ ミレミ」「ミミミ ミレミ」）
怒鳴るのではない！一つ一つの音を響かせよう！
- ・「返せ」というものは4つずつ、間違えずに、はっきりと！（間違えた言葉は目立つ！）
「街」「村」「海」「風」
「波」「魚（うお）」「恋」「日差し」
「乾杯」「祖母」「誇り」「福島」
- ・4つの「返せ」はリズムしっかりと！だらだらと「返せ」ではない。はっきりとした言葉でリズミカルに！
- ・「チャイムの音 着信の音 投函の音」：それぞれの言葉をしっかりと、はっきりと！
- ・バリトンのハミング：最初は「レ・・4拍」「トシ・・4拍」「トシ・・4拍」+「おと・・」（トシトシミ・・）2回目「ファ・・4拍」「ファ・・4拍」「ファ・・4拍」+「おと・・」（レトファミ）
音程確保！正しいハミングを！
- ・「波を返せ」で4つに分かれると途端に声が小さくなるのでは困る。各パートしっかりと声を出して！
- ・「乾杯を返せ」・・4つの返せと主張するもの、しっかりと表現する。各パートの音程確かに！出だしがバラバラでは困る！「乾杯」「祖母」「誇り」「福島」とピタッと合わせよう！

山本力さん写真ギャラリー



我が家の風物詩・柿を干す



山肌に映えるナナカマド（穂高）No532(4/4)